

CLINIC  
ばんぼう

開業医をサポートする総合情報誌

BAMBOO

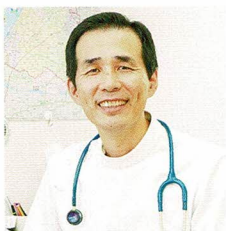
December

2022.12

Vol.501

[特集] 「いざ」と言うときに選んでもらう

# 患者予備軍を ストックする地域活動



伊藤大樹  
医療法人  
あおばクリニック  
院長



近藤昭彦  
医療法人なごみ会  
岸辺くすのぎ透折クリニック  
臨床工学技士 理事



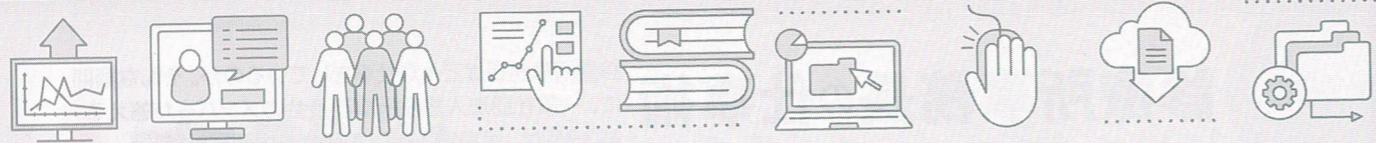
多賀千之  
院長  
多賀クリニック



五島朋幸  
代表  
ふれあい歯科クリニック



小柳貴人  
おやなぎアレルギー  
クリニック 院長



# 全国CLINIC NEWS

## 北海道ブロック

### リハビリ特化の在宅診療所

#### 訪問STの価値が地域に浸透

●医療法人溪仁会 溪仁会真駒内在宅クリニック（札幌市南区）

10月3日、札幌市南区に医療法人溪仁会溪仁会真駒内在宅クリニック（岡田学院長）が開院した。同院は、母体の定山溪病院から訪問診療と訪問リハビリテーション部門を引き継いだセラライト診療所として、在宅療養支援を担っていくことになる。

岡田院長は、「定山溪は「札幌の奥座敷」と呼ばれる温泉地のため、訪問診療やリハビリを行うには利便性が良いとは言えず、提供工リ



中央が岡田学院長、その左が志村将科長、後列左が千葉瑛斗さん

アはかなり限られていました。今回、当院ができたことで提供範囲はかなり広がると見込んでいます」と語る。その想定どおり、従来から診ていた患者に加え、本院との円滑な連携により新規相談も多く寄せられた結果、訪問診療・リハビリの患者数は開院1カ月目ですでに300人を超える勢いだ。

比して不足傾向になる言語聴覚士による介入は、大きなアドバンテージになりつつあるという。「アセスメントの際、ケアマネジャーに言語聴覚士の役割を説明することで必要性に気づいてくれるケースが多くあります。さらに、医師がいることでスムーズにリハビリを開始できることも強みになっていきます」と、訪問リハビリテーション科の志村将科長は説明する。加えて、病院の一部門だった時代から地域のケアマネジャーとの相互理解に力を割いていたことも、現状を後押ししている。

その中心を担ってきた言語聴覚士の千葉瑛斗さんは、「地域のケアマネジャーを集めて、STはじめセラピストについて知ってもらおう機会をつくるなど、地道な活動に取り組んできました。地域のなかで一緒に成長してきた感覚です」と振り返る。

こうした活動の一環として、地域のデイサービスに対してリハビリのアセスメントや助言を行う生活機能向上連携加算算定のサポートも行っている。志村科長は、「地域貢献としての意味合いもある一方、セラピストが自身のスキルを高める機会にもなっています」と

## 北信越ブロック

### キウアとケアの融合を通じ身体と心の痛みを緩和する

#### ●真生会伏木クリニック

（富山県高岡市）

富山県高岡市伏木地区に9月1日、真生会伏木クリニック（古谷正晴院長）が開院した。地域で「支える医療」を達成したいとの思いから、「自利利他」の精神を理念に据え、内科・外科・疼痛緩和内科の専門診療所とし

て、患者の身体と心の痛みを和らげる緩和ケアにも力を注いでいる。「患者さんの話を傾聴することは、その人と真剣に向き合い、心の痛みと向き合うことを意味します。患者さんの苦しみに耳を傾け、患者さんが「わかってもらえた」と実感されたとき、苦しみは和らぎ、元気になるのです」（古谷院長）

従来の医療技術を用いた治療としての「キウア」はもちろん、対話によって築かれた信頼関係の力で苦しみを軽くする「ケア」をより重視し、その両面から患者を笑顔にし、幸せにする。まさに「支える医療」を追求している。

そのほか、設備面においても、発熱外来専用室を設けスマートフォンによる事前問診を実施するなど、さまざまな角度から手厚い対応を行っている。また、2階フロアは多目的ホールとなっており、運動ス



港近くの高台に立つ真生会伏木クリニック

### 患者が自ら学び治療する時代をつくり上げる

#### ●たかはしクリニック

（長野県中野市）

たかはしクリニック（高橋嗣明院長）が2013年に開業以来、栄養療法を中心とした食

事指導を徹底し、病院にかけられない身体をつくる診療所を目指している。人間本来の機能を取り戻すため、幅広い治療法から患者一人ひとりにとって一番良い治療を導き出すことに注力している。

高橋院長は、「大病院の最前線で勤め、50歳を区切りに栄養療法を中心とした当院を開業しましたが、治療を重ねるなかで『食事の引き算』と『思考』が重要であると改めて感じています。治療でよくなることだけではなく、どうしてそうなったのかが大切であり、問題点がどこに潜んでいるのかは、カウンセリングで時間をかけることが必須です」と話す。

同院では、①栄養療法、②RA SHAセラピー、③MATRIX（旧名：MDa）、④腸内洗浄療法、⑤海水療法、⑥頭鍼治療——など、幅広い治療法をもとに、カウンセセ

リングで出た問題点を患者が自ら学んで予防し、真の健康を取り戻す基盤を築いている。

また、昨今では増加する新型コロナウイルス感染症とワクチンの後遺症への対応を啓発するべく、出版活動にも注力しているという。今後の展望を高橋院長は、「10年以内の計画として考えていることとして、一つは、一般の方がゲイム感覚で正しい医療の知識を学べるWEBサイトを制作し、現実での小さな医療ウィレッジをつくる構想があるようです。もう一つは、『旅する診療所』というアイデアです。全国で声をかけてくれた地域に向いて診療し、人との縁を築いてみたいと思っています。自院としても、今後も一人ひとりに時間をかけて診る体制を創出し、薬からの離脱を目標とする診療基盤を構築していきたいです」と語った。



高橋嗣明院長

新型コロナ ワクチン 後遺症の 早期改善が叶う 薬物を用いない治療方法 絶賛

医師・元厚生労働大臣 坂口力氏が絶賛

解毒と基礎代謝による健康は新理論